

マツノシンマダラメイガ

針葉樹の若枝や幹や枝の樹皮下に潜るイモムシ（幼虫）。最大長約25mm。体は灰色で緑色や赤色味を帯びる。暗い縦縞が多数ある。背中に黒い斑点があり、その斑点の部分は盛り上がる。頭は赤茶色。

加害部位からは糞の混じったヤニがでる。マツで被害が多いようである。

【学名】 *Dioryctria sylvestrella*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , メイガ科 (Pyralidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; 朝鮮半島, ヨーロッパ。

【特徴】

マツノマダラメイガの幼虫に似るが、黒い斑点の部分が盛り上がる点で区別できる。

【生態】

宿主：トドマツの当年生枝，エゾマツやヨーロッパトウヒなどトウヒ属の当年生枝や幹，マツ属の当年生枝，幹，球果。

北海道では年1世代。幼虫で越冬。幼虫は幹では枝の付け根あたりにもぐることが多い。新梢では内部を食べる。夏に成虫になる。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～	
幼虫（越冬）	+++	+++	+..					..	+++	+++
幼虫（摂食・成長）			..■■■	■■■■	■■■..	■■■■	■■■■	..		
蛹				..	◇◇◇◇	..				
成虫・卵					..○○	○○○	..			

【被害と防除】

マツの幹や枝の樹皮下に潜る被害が比較的多いようである。トウヒ類の幹先端や針葉樹の球果に潜り込む被害もときどき目にする。

加害部位が若枝，枝，球果の場合は切り取って処分する。幹の場合は切開して，中の幼虫を除去する。木の中にいるので殺虫剤は効きにくい。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場研究報告, 22: 85-129. (形態, 生

態) .

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真) .

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツノシンマダラメイガ meiga/matusin/
kaisetv.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/9/29-12/12.